

「どの子ども国語が好きになる指導法」

植草学園大学教授 野口芳宏先生

☆授業の主役は？

- ・ 給料をもらっている教師
- ・ 児童生徒＝受益者＝主賓

☆生活リズム

- ・ 早寝 早起き 朝ご飯→大切なのは早起き
- ・ 無理に寝させることはできないが無理に起こすことはできる。早く起きれば早く眠くなる。

☆自問自考

- ・ 観念的思考…スマートだが薄っぺらい
- ・ 体験的思考…格好は悪いが重みがある。

1. 活動主義…指導が入らない。

(例①) 作文を書かせるだけ。

T「作文を書きなさい。」 C「どんなに書いたらいいですか。」 T「思ったことを書けばいいんです。」

(例②) 音読をさせるだけ。

開発主義（学力形成主義）…否定（指導）→理想

◎否定のない授業は学力が付かない。

2. 正解不明の国語の授業→正誤明示

◎児童の意見の正誤を曖昧なままにしない。

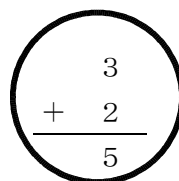
(例) T「そういう考え方もあるね。」 →×

3. 教材内容主義

- ・ 正夫さんはミカンが3個持っています。花子さんは2個持っています。あわせて何個でしょう



教材



教材

教科内容

・国語の場合の教材

(例)「大きなかぶ」の内容→×ネズミが手伝ってかぶを引いた

○「大きな」は3回反復しているから2回目は1回目より大きな声で読み、3回目は2回目より大きな声で読むんだよ。

4. 努力法不明→努力法明示

5. 易しすぎる教材→難解な教材

◎易しすぎる教材では下降的変容に陥る。(初めは楽しいが習っている内につまらなくなる。)

6. 音読指導

・「上手に読めましたね。」では力が付かない。

音読技術を指導する。

①声量

②間

③読速

知識→学習用語を使って教える。教えないから国語の学力が付かない。

◎言語活動の充実＝公的言語「わかりません。」

× 私的言語活動「わからん。」

7. できることより変わること

・頭のいい子はできる。＝親の手柄

・変わる＝自分の努力

◎具体語から抽象語に変えていくことが国語の力になる。